

# 「新世紀の哲学」のレビュー(Philosophy in a New Century) by John Searle (2008) (2019年改訂)

Michael Starks

## 抽象

本にコメントする前に、私はヴィトゲンシュタインとサールと合理性の論理的構造に関するコメントを提供します。ここでのエッセイは、主に過去10年間にすでに出版されています(いくつかは更新されましたが)、1つの未発表のアイテムと一緒に、ここで何も彼の仕事に追いついてきた人には驚きではありません。Wと同様に、彼は彼の時代の最高のスタンドアップ哲学者とみなされ、彼の書かれた作品は岩と画期的な全体として固体です。しかし、後のWを真剣に受け止めなかったことは、いくつかの間違いや混乱につながります。ほんの一例:p7では、基本的な事実に関する私たちの確実性は、私たちの主張を支持する理性の圧倒的な重みによるものだと2回指摘していますが、Wは「確実に」で、システム1の認識、記憶、思考の真の唯一の公理構造を疑う可能性はないと明確に示しました。p8の最初の文では、彼は確実性が改訂可能であることを教えてくれますが、私たちが確実性2と呼ぶかもしれないこの種の「確実性」は、経験を通じて公理的で修正不可能な確実性(確実性)を拡張した結果であり、提案(真または偽)として全く異なります。これはもちろん、Wが何度も何度も実証した「言語による私たちの知性の妖艶との戦い」の典型的な例です。1つの単語-2つ(または多くの)異なる使用。

彼の最後の章「命題の統一」(以前は未発表)はまた、S1を記述する真の唯一の文章とS2を記述する真または偽の命題の違いを明確にするので、Wの「確実性について」またはDMSのOCに関する2冊の本(私のレビューを参照)を読むことから大きな利益を得るでしょう。これは、S2で彼らについて考え始めた後のみTまたはFになるので、S1の認識を命題として受け取ることに対するはるかに優れたアプローチとして私を襲います。しかし、命題は、過去と未来とファンタジーの実際または潜在的な真実と虚偽の記述を許可し、したがって、前言語学的または原語社会に対する大きな進歩を提供するという彼の指摘は、誠実です。彼が言うように、「命題は満足の条件を決定することができるものです。満足の条件.それはそうであるということです。あるいは、追加する必要があります。

全体として、PNCはSの半世紀の仕事に起因するヴィトゲンシュタインに対する多くの実質的な進歩の良い要約ですが、私の見解では、Wは彼が言っていることを理解すると、まだ不平等です。理想的には、彼らは一緒に読む必要があります:明確な一貫した散文と一般化のためのサールは、Wの厄介な例と華麗な格言で示されています。もし私がずっと若かったら、まさにそれをやっている本を書くだろう。

現代の2つのシス・エムスの見解から人間の行動のための包括的な最新の枠組みを望む人は、私の著書「ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインとジョン・サールの第2回(2019)における哲学、心理学、ミンと言語の論理的構造」を参照することができます。私の著作の多くにご興味がある人は、運命の惑星における「話す猿--哲学、心理学、科学、宗教、政治—記事とレビュー2006-2019 第3回(2019)」と21世紀4日(2019年)の自殺ユートピア妄想<sup>st</sup> Century 4<sup>th</sup> ed (2019)などを見ることができます。

「しかし、私はその正しさを満たすことによって世界の私の写真を得ませんでした:また、私はその正しさに満足しているので、私はそれを持っていません。いいえ:それは私が真と偽を区別する継承された背景です。 ヴィトゲンシュタイン OC 94

「今、それが私たちが関係している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。ヴィトゲンシュタイン「青い書」 p6 (1933年)

「ナンセンス、ナンセンス、あなたは単に記述するのではなく、仮定をしているからです。ここでの説明に頭が悩まされているのなら、最も重要な事実を思い出すことを怠っているのです。ヴィトゲンシュタイン Z 220

「哲学は単に私たちの前にすべてを置き、何も説明も推測もしていません。すべての新しい発見や発明の前に可能な事に「哲学」という名前を付けるかもしれません。ヴィトゲンシュタイン PI 126

「私たちが提供しているのは、好奇心ではなく、人間の自然史に関する本当の発言です。しかし、誰も疑っていない事実に対する観察ではなく、常に目の前にあるため、無言の事実には過ぎないのです。ウィトゲンシュタイン RFM I p142

「哲学の目的は、言語が止まるところに壁を建てることです。ヴィトゲンシュタイン哲学的機会 p187

「言語の限界は、文を単に繰り返さずに文に対応する事実(翻訳)を記述することは不可能であることによって示されています(これは哲学の問題に対する関天的な解決策と関係があります)。ヴィトゲンシュタイン CV p10 (1931年)

「ここでの最大の危険は、自分自身を観察したいです。LWPP1, 459

「機械プロセスは思考プロセスを引き起こす可能性がありますか?答えは:はい。実際、思考プロセスを引き起こすのは機械プロセスのみであり、「計算」はマシンプロセスに名前を付けず、通常はマシンに実装できるプロセスを挙げません。サール PNC p73

"...計算としてのプロセスの特性は、外部からの物理システムの特性です。そして、計算としてのプロセスの識別は、物理学の本質的な特徴を特定するものではなく、本質的に観察者の相対的特徴である。サール PNC p95

「中国語の部屋の議論は、セマンティクスが構文に固有ではないことを示しました。私は今、構文が物理学に固有ではないことを別々に異なる点にしています。サール PNC p94

「物理学に固有の構文を得る唯一の方法は物理学にホムンクルスを入れるだけなので、再帰分解によるホムンキュラスの誤りを排除する試みは失敗します。サール PNC p97

しかし、型作者や脳などの物理システムは、その計算シミュレーションと共有するパターンを特定することによって説明することはできません。...要するに、構文の帰属はそれ以上の因果関係を特定しないという事実、プログラムが認知の因果関係の説明を提供するという主張に致命的である。物理的なメカニズム、脳、その記述の様々な実際の物理的および物理的/精神的な因果関係があります。サール PNC p101-103

「要するに、認知科学で使われる『情報処理』の感覚は、本質的な意図的性の具体的な生物学的現実を捉えるには抽象化のレベルが高すぎます。私たちは、「私は私に向かって来る車を見る」という同じ文が視覚の意図的性とビジョンの計算モデルの出力の両方を記録するために使用することができるという事実によって、この違いが目がくらんでいます。認知科学で使われている「情報」という意味では、脳が情報処理装置であると言うのは単に誤りです。サール PNC p104-105

「理由文で報告された事実の性質と、エージェントの欲望、価値観、態度、およびエージェントとは無関係に合理的なエージェントに拘束力のある行動の理由はありますか?

評価。...伝統的な議論の本当のパラドックスは、ヒュームのギロチン、厳格な事実価値の区別を語彙で提起しようとするということです。サール PNC p165-171

"...すべてのステータス機能、したがって、言語を除くすべての制度的現実、宣言の論理的な形式を持つスピーチ行為によって作成されます。問題のステータス機能の形態は、ほとんど常に脱イオン力の問題です。何かを権利、義務、要件として認識することは、行動の理由を認識することです。これらの脱イオン構造は、可能な欲望に依存しない行動の理由を作ります。一般的なポイントは非常に明確です:行動のための欲望ベースの理由の一般的な分野の作成は、行動のための欲望に依存しない理由のシステムの受け入れを想定しました。サール PNC p34-49

「意図的性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、即時のフェノメノロジーの現実を持っていないので、フェノメノロジーの手の届かないところにあります。なぜなら、無意味さから意味を作るとは意識的に経験されていないからです。存在しません。これは。。。」「と、表見上の錯覚を見る。サール PNC p115-117

「意識は脳のプロセスに対して因果関係を低下させる。そして意識は、基礎となる神経生物学の因果関係に加えて、それ自身の因果関係を持っていません。しかし、因果関係の還元性は存在論的還元性につながりません。意識は経験としてのみ存在する。したがって、第三者のオントロジーを持つもの、経験とは独立して存在するものに減らすことはできません。サール PNC 155-6

"...心と世界の基本的な意図的な関係は、満足の条件と関係があります。そして、命題は世界との意図的な関係に立つことができるものであり、それらの意図的な関係は常に満足の条件を決定し、提案は満足の条件を決定するのに

新世紀の哲学(PNC)について詳しくコメントする前に、私はまず、サール(S)とウィトゲンシュタイン(W)の作品に例示されている哲学(記述心理学)と現代心理学研究との関係についてコメントします。

Sは言わず、ほとんど気づいていないようですが、彼の作品の大部分は、彼をしばしば批判しているにもかかわらず、Wの作品から直接続きます。サールがWの研究を続けたと言うことは、W研究の直接的な結果であると言うことではなく、人間の心理学が1つしかない(同じ理由で人間の心臓病学が1つしかない)、行動を正確に記述する人は誰でもWが言ったことの変種または延長をボイシングしなければならないということです(彼らが両方とも行動の正しい説明をしている場合)。私はSのほとんどがWで予見されている、ストロングAIに対する有名な中国の部屋の議論のバージョンとチャップス3-5の主題である関連する問題を含む。ちなみに、中国の部屋があなたに興味がある場合は、ビクターロディッチのxIntを読む必要がありますが、事実上未知のCRに補足する - "すべての欠陥のサール解放"。ロディッチはまた、Wの数学哲学に関する一連の素晴らしい論文を書いています - すなわち、数学の無限のシステム2 SLG(二次言語ゲーム)に拡張された公理的システム1能力のEP(進化心理学)。数学の心理学に対するWの洞察は、意図的性への優れた参入を提供する。私はまた、Strong AI、行動主義、コンピュータ機能主義、CTM(心の計算理論)、動的システム理論(DST)の多面的なバージョンを促進する人は誰も、Wのトラクタトゥスは、これまでで最も印象的で強力な記述と見なすことができることを認識していないようです(すなわち、行動(思考)は事実の論理的処理として情報を処理します)。

もちろん、後で(しかし、デジタルコンピュータがチューリングの目に輝いていた前に)Wは、なぜこれらが心理学に置き換えられなければならない心の支離滅裂な記述であったのか(または彼が一生やったのはこれだと言うことができます)。しかし、Sは、メカニズムとしてのWの優れた心の声明と、彼の後の作品でそれを破壊することにほとんど言及していません。W以来、Sはこれらの機械的な行動観の主要なデコンスであり、最も重要な記述心理学者(哲学者)であるが、Wが彼をいかに完全に予想していたか、そして大きく他の人たちも(しかし、W、チューリング、AIのプライドフットとコーブランドの多くの論文や本を見る)を知らない。Sの仕事はWの仕事よりもはるかに簡単で、専門用語はありますが、正しい方向からアプローチすればほとんど見事に明らかです。詳細については、Wや他の書籍の私のレビューを参照してください。

ウィトゲンシュタインは、私にとって簡単に人間の行動に関する最も輝かしい思想家です。彼の作品全体として、すべての行動が先天的な真のみの公理の延長であり、意識的な比率(システム2)(S2)が無意識の機械化(システム1)から現れることを示している(S1)。このアイデアの彼の最終的な拡張された治療のための「確実性について」(OC)を参照してください。準備のためにその私のレビュー。彼のコーパスは、動物の行動のすべての記述のための基礎として見ることができ、心がどのように機能し、実際に働かなければならないかを明らかにすることができます。「必須」は、すべての脳が共通の祖先と共通の遺伝子を共有し、彼らが働く基本的な方法が1つしかなく、これは必ずしも公理的構造を持ち、すべての高い動物が包括的なフィットネスに基づいて同じ進化した心理学を共有し、人間ではこれが他の変化を操作する(認知または表現型の錯覚)に拡張されるという事実によって伴われる些細な)。

間違いなく、WとSの仕事のすべては、これらのアイデアの開発またはバリエーションです。ここでのもう一つの主要なテーマは、もちろん人間の行動のすべての議論において、すべての行動の根源となる遺伝的にプログラムされたオートマチズムを文化の影響から分離する必要性である。哲学者、心理学者、人類学者、社会学者などは、包括的な方法でこれを明示的に議論する人はほとんどいませんが、彼らが扱っている主要な問題と見なすことができます。私は、高速で遅い思考(例えば、知覚やその他の自動マティスム-S1とS2--以下参照)だけでなく、自然と育成を離れていじめるための努力として、より高次行動のすべての研究を考慮することが最大の価値を証明することを示唆しています。

Wが彼の最後の期間(そしてあまり明確な方法で彼の以前の仕事を通して)にレイアウトしたものは、進化心理学(EP)の基礎であり、またはあなたが好むならば、心理学、認知言語学、意図的性、より高次の思考または単なる動物の行動です。悲しいことに、彼の作品は、それが書かれた日と同じくらい関連性の高い記述心理学のユニークな教科書であることにほとんど誰も気づいていないようです。彼は心理学やその他の行動科学や人文科学によってほとんど普遍的に無視されており、多かれ少なかれ彼を理解している少数の人々でさえ、EPと認知錯覚に関する最新の研究(心の理論、フレーミング、速くて遅い思考の2つの自分自身)に対する彼の期待の程度を認識していない。サールの研究全体として、最近の性質心理学の遺伝子進化のために可能な高次の社会行動の驚くべき記述を提供し、後のWは、それがS2の意識的な性質提案的思考に進化したS1の真の唯一の無意識の公理に基づいている方法を示しています。

私は、Wの鍵は、彼がS1とS2の2つの自分自身と速く、遅い思考の多面的な言語ゲームを記述していることを見て、そして彼の第3期の作品から始まり、プロトトラクタウスに逆読することによって、私たちのEPを解読する先駆的な努力として彼のコーパスを見ることを示唆しています。また、一貫性があり正しい限り、行動のすべての記述が同じ現象を記述しており、簡単に相互に翻訳する必要があることを明確にする必要があります。したがって、最近のファッションブルなテーマである「身体化された心」と「過激なエナビズム」は、Wの作品から直接、そしてWの作品に流れ込むべきです(そして、彼らはそうします)。しかし、ほとんど誰も専門用語を避け、目立つ例に固執する彼の例に従うことができるので、リダウト可能なサールでさえ、これが真実であることを見るためにフィルタリングされ、翻訳する必要がある、彼でさえ、Wが速くて遅い、2つの自己の考え方(書き込み、話す、演技)で最新の作品を予想した方法を完全に得ることはありません。

Wは進化的認知言語学のパイオニアとも見なされ、文脈における言語使用の例を慎重に分析することで、心とその進化のトップダウン分析とみなすことができます。彼は多くの種類の言語ゲームと、真の唯一の無意識、前または原語言語の公理的な知覚の高速思考の主要なゲームとの関係を暴露し、記憶と反射的思考、感情と行為(しばしば皮質下および原始的な皮質爬虫類脳第一自己、ミラーニューロン機能として記述される)、そして後に進化した、より高い皮質の性質言語的意識能力は、私たちがそう夢中になっている認知錯覚のネットワークである遅い思考の真または偽命二次言語ゲームを構成する、信じる、知っている、思考する。Wは、S1の真の唯一の認識、記憶、反射的な行動がS2の性質の思考、記憶、理解にどのように等しいかを示す何百もの言語ゲームを解剖し、彼の例の多くも自然/育成の問題に明示的に取り組んでいます。この進化的な視点で、彼の後の作品は、完全に現在であり、一度も等しくなったことがない人間性の息をのむような啓示です。多くの視点にはヒューリスティックな価値がありますが、この進化的な2つのシステムの視点は、すべてのより高い行動を照らすことがわかります。ドブザンスキーは有名にコメントしました:「生物学では進化の光を除いて意味をなさない」そして、哲学の中で、進化心理学の観点からは意味がありません。

一般的なアイデア(例:ピンカーの本「思考の対象:人間性への窓としての言語」)のサブタイトル)その言語は、私たちの思考のウィンドウまたは何らかの翻訳、または(Fodor)それが翻訳である他の「思考の言語」であり、W(そして同様にS)によって拒否されました。Wは(Sも同様に)何百もの絶え間なく分析されている活発な言語の例を繰り返し分析して、その言語は私たちの最高の絵です思考や人間の本質、Wのコーパス全体を考えることは、このアイデアの発展と見なすことができます。サールのずっと前に、彼は生理学、実験心理学および計算のボトムアップアプローチ(たとえば、行動主義、機能主義、強力なAI、動的システム理論、心の計算理論など)が彼のトップダウン分解の何を明らかにできるかという考えを拒否しました言語ゲーム(LG)はしました彼が指摘した主要な困難は、常に私たちの目の前にあるものを理解することです(これをシステム1の気づきのなさとして見ることができます(おおよそSは「現象学的幻想」と呼んでいます)。あいまいさを表現する方法を見つけることです。) LPP1、347。したがって、音声(つまり、私たちが相互作用する主な方法である口腔筋収縮)は、心への窓ではなく、音響の爆発によって表現される心そのものです。過去、現在、未来の行為(つまり、セカンドセルフの進化した後期言語ゲーム(SLG)を使用したスピーチ-性質-想像、知る、意味、信じる、意図など)について。

彼の他の格言と同様に、私は神が私たちの心を見ることができたとしても、私たちが何を考えているのかを見ることができなかったとしても、これは私たちが何を考えているのかを見ることができなかったというWのコメントを真剣に受け止めるべきだと提案します。しかし、これらのS1機能は常に因果関係の精神状態であり、S2の性質は潜在的にCMSに過ぎないので、神は私たちが知覚し、記憶しているものと私たちの反射的思考を見ることができました。これは理論ではなく、私たちの文法と生理学に関する事実です。彼は性質を精神状態と呼んでいるので、ここでの水は泥だらけですが、Wがずっと前にしたように、彼は因果関係の言語が高次の出現S2記述には当てはまらないことを示しています。これは、Wで顕著であるが、Sによって否定されている別のポイントを持ち出します、私たちができることは、理論ではなく、説明を与えることだけです。Sは彼が理論を提供していると主張していますが、もちろん「理論」と「説明」も言語ゲームであり、Sの理論は通常Wの記述であるようです。Wのポイントは、私たちが私たちの行動の真の説明であることを知っている厄介な例に固執することによって、我々はすべての行動(すべての言語ゲーム)を説明しようとする理論の迅速さを避け、Sは一般化したいと思い、必然的に迷子になる(彼はPNCで彼自身の間違いのいくつかの例を与える)。Sや他の人々が多くの言語ゲームを説明するために彼らの理論を無限に変更するにつれて、彼らはWのように多くの例を使用して行動を記述することに近づきます。

彼の後の第二と彼の第3ピリオドでWのお気に入りのトピックのいくつかは、高速で遅い思考(システム1と2または大まかに第一次言語ゲーム(PLG)と内側と外側の二次言語ゲーム(SLG)の異なる(しかし、デジタル化の間)LGです。、私用言語の不可能とすべての行動の公理的構造。「思考」のような動詞は、最初にS1機能を説明しましたが、S2が進化するにつれて、彼らはそれに適用されるようになり、脳内の写真を見ているかのように想像しようとするような内部の神話全体につながりました。PLGは、私たちの不随意、システム1、速い思考、ミラーニューロン、真の唯

一の、非提案的な、精神状態- 私たちの認識と記憶と不随意行為(システム1の真実とUA1(機関1の理解を含む)と感情1-喜び、愛、怒りなど感情1-進化的に後のSLGの自発的な記述または自発的な表現の発話と説明です、システム2、ゆっくりとした思考、ニューロンの精神化、テスト可能な真偽、命題、**真実2**とUA2と感情2-喜び、愛情、憎しみ、処分(そしてしばしば反事実)は、理由の観点からしか記述できない、仮定し、意図し、考え、知り、信じるなど(すなわち、神経化学、原子物理学、数学の観点からシステム2を記述しようとするのは事実です)。

EP、遺伝学、生理学の面で理由を与えたくない限り、システム1の自動化を理由(例えば、リンゴとして見えています..)を記述することはできません。「ここでの最大の危険は、自分自身を観察したいです。LWPP1、459)。

強力なヒューリスティックは、行動と経験を意図的性1と意図的性2(例えば、思考1と思考2、感情1と感情2など)、さらには真理1(Tのみ公理)と真理2(経験的拡張または「定理」)に分離することです。Wは、「何も隠されていない」、すなわち、私たちの心理学全体とすべての哲学的な質問に対するすべての答えは、私たちの言語(私たちの人生)にあり、難しいのは答えを見つけることではなく、私たちの目の前でいつものようにそれらを認識することです- 私たちはより深く見ようとするのをやめなければなりません。

Wを理解したら、言語は心の別の名前に過ぎないので、他の行動領域とは別の研究として「言語哲学」に関する不条理を認識します。そして、Wが行動を理解することは心理学の進歩に決して依存していないと言うとき(例えば、彼の引用された主張は、「心理学の混乱と不毛さは、それを『若い科学』と呼ぶことによって説明されるべきではない。しかし、私が引用したことがない別のコメントは哲学に役立つのか?たしかに。発見された現実には哲学者の仕事を明るくする。可能性を想像する」(LWPP1,807)。だから、彼は科学の境界を立法するのではなく、私たちの行動(主にスピーチ)が私たちの心理学の可能な限り明確な画像であり、より高い秩序行動のすべての議論が概念的な混乱に悩まされていることを指摘しています。

FMRI、PET、TCMS、iRNA、計算アナログ、AI、その他すべては、私たちの行動の物理的根拠を提供し、それにもかかわらず説明できない言語ゲームの分析を容易にするために、私たちの生来の公理心理学を拡張するための魅力的で強力な方法です- EPはちょうどこのように-と変わりません。「確実性について」で最も徹底的に探求されている真の唯一の公理は、包括的なフィットネス(IF)のメカニズムによって進化し、動作する細菌とその子孫(例えば、人間)の自動化された真のみの反応に追跡可能なWの(そして後のサールの「岩盤」または「背景」すなわち進化心理学)です。

Wは、行動の分析を説明ではなく説明と見なすべきだと主張しましたが、もちろんこれらは複雑な言語ゲームであり、ある人の説明は別の説明です。世界に対する彼らの生来の真のみの、非実証的な(自動化された、変更不可能な)応答から始まり、動物は控除を通じて公理的理解をさらに真の理解(私たちが呼ぶかもしれないように「定理」)に拡張しますが、これは数学の文脈でも複雑な言語ゲームです。

ティラノサウルスと中間子は、私たちの両手の存在や私たちの呼吸と同じように挑戦できなくなります。これは人間の本性に対する見方を劇的に変えます。心の理論(TOM)はまったく理論ではなく、新生動物(UAが適切に定義されている場合はハエとワームを含む)が持つ真の唯一の理解(UAは10年前に考案した用語)のグループであり、その後、大幅に進化しました(高等真核生物)。ただし、ここで述べたように、Wは意図性のほとんどのシステム1とシステム2のバージョン(言語ゲーム)があることを非常に明確にしました。高速無意識UA1と低速意識UA2、そしてもちろんこれらは多面的な現象のヒューリスティックです。S2の原材料はS1ですが、S2はS1にもフィードバックします。心理学の基本である最低レベルの知覚、記憶、反射的思考へのより高い皮質フィードバックです。Wの例の多くは、この双方向の道を探索しています(たとえば、アヒル/ウサギの議論やジョンストンでの「見える」など)。

進化論の「理論」は、19世紀末以前の、そして少なくとも半世紀前のダーウィンにとって、普通で合理的で知的な人物のための理論ではなくなりました。一つは、EPの絶え間ない働きを介して私たちの真の唯一の背景にTyrannosaur サウルスレックスとそれに関連するすべてのものを組み込まざるを得ません。一度論理的な(心理的な)必要性を得ると、最も明るく最高の人でさえ、人間の生活のこの最も基本的な事実(カント、サールと他の少数の帽子の先端を持つ)を把握していないように見えるのは本当に驚くべきものです。ちなみに、論理の方程式と私たちの公理心理学は、Wと人間性を理解するために不可欠です(ダニエレ・モヤール・シャーロック(DMS)として、私の知る限りでは、他の誰も指摘していません。

だから、私たちの共有された公共の経験(文化)のほとんどは、私たちの公理的なEPの真の唯一の延長となり、私たちの正気を脅かすことなく間違っで見つけることはできません。サッカーやブリトニー・スピアーズは、これらの概念、アイデア、出来事が生まれ、誕生から始まり、私たちの意識と記憶の多くを包含するためにあらゆる方向に広がる真の唯一のネットワークで無数の他の人に結びついているので、私や私たちの記憶と語彙から消えることはできません。DMSによってうまく説明され、サールによって彼自身のユニークな方法で解明されたカロリーは、「現実」は不本意な速い思考の公理の結果であり、テスト不可能な真または偽の命題の結果であるため、世界と他の心(およびブランクスレートを含む他のナンセンスの山)の懐疑的な見解は本当に足場を得ることができないということです。

私は、生来の真の唯一の公理Wが彼の作品を通して占められており、OC(彼の最後の作品「確実性」)でほぼ独占的に、現在の研究の中心にある速い思考またはシステム1に相当することは明らかだと思います(例えば、Kahneman--「思考速く遅い」を参照してください)が、彼はWが約75年前にフレームワークをレイアウトしたのを知りません)これは、不本意で無意識であり、知覚の精神状態(UOA1を含む)と記憶と不随意行為に対応し、Wは無数の例で何度も何度も指摘する。これらの「脳内反射神経」(脳内のエネルギー使用によって測定された場合、すべての脳内脳神経症の99%)と呼ぶかもしれません。

私たちの遅いまたは反射的な、多かれ少なかれ「意識的」(言語ゲームの別のネットワークに注意してください!)第二の自己脳活動は、能力や可能な行動を指す「性質」または「傾向」として特徴付けられるWが精神状態ではなく(または同じ意味ではない)、発生および/または持続時間の明確な時間を持っていないものに対応しています。しかし、Wが広く議論した「知っている」、「理解する」、「考える」、「信じる」などの処分の言葉には、少なくとも2つの基本的な用途があります。一つは、ムーア(その論文がOCを書くためにWにインスピレーションを与えた)によって例示された独特の哲学的使用(しかし、日常的な使用に卒業する)であり、直接的な認識と記憶に起因する真の唯一の文章、すなわち、私たちの生来の公理学的S1心理学(「私はこれらが私の手であることを知っている」)とS2の使用です。

不本意な速い思考の調査は、心理学、経済学(例えば、カーネマンのノーベル賞)および「認知錯覚」、「プライミング」、「フレーミング」、「ヒューリスティック」、「バイアス」などの名前の他の分野に革命をもたらしています。もちろん、これらの言葉を使用する方法はますます有用ではなく、研究や議論は「純粋な」システム1から1と2の組み合わせ(Wが明らかにした標準)までさまざまですが、システム2の思考や意図的な行動は「認知モジュール」の複雑なネットワークの多くを含まないと起こり得るので、おそらく遅いシステム2の処分思考だけではありません。「推論エンジン」、「脳内反射神経」、「オートマチズム」、「認知公理」、「背景」または「岩盤」(Wと後のサールが私たちのEPと呼ぶように)。

Wの繰り返しのテーマの一つは、現在の心の理論(TOM)と呼ばれるもの、または私がエージェンシーの理解(UA)を好むようにでしたが、もちろん、彼は現在の主要な研究努力の対象であるこれらの用語を使用しませんでした。私は、UA1と2を慎重に解剖し、最近、富州の主要な哲学者ダニエル・ハットの一人に気づいたイアン・アパリーの仕事に相談することをお勧めします。しかし、他の心理学者と同様に、ApperlyはWが60年から80年前の間にこの基礎を築いたという考えを持っていません。

Wが数え切れないほどの時間を作ったもう一つのポイントは、私たちの意識的な精神生活は、それが正確に記述されていない、または行動科学の柱である方法を決定するという意味で、エピソードメンタルであるということです。哲学の壮大な例については、PNCの「フェノメノロジカル・イリュージョン」を参照してください。行動を支配して記述するのはシステム1の無意識の自動化であり、後に進化した意識的な性質(思考、記憶、愛情、願い、後悔など)はケーキの上の単なるアイシングであるというWとSの記述心理学の明らかな結果です。これは最新の実験心理学によって最も顕著に生み出され、そのうちのいくつかは引用された本の中でカーネマンによってうまく要約されています(例えば、「二人のセルフ」という章を参照してください)、もちろん、彼が引用していない最近の作品の膨大な量とポップとプロの本の無限の流れがあります)。認知錯覚、オートマチズム、高次思考に関する急成長する文献のほとんどは、Wと完全に互換性があり、簡単に推測できるというのは、簡単に防御可能な見解です。

EPの主要なパイオニアとしてのWの私の見解については、彼がEP研究の主力であるワソソテストとして後に知られるようになったものの背後にある心理学を、彼が何度も具体的に何度も非常に明確に説明していることに誰も気づいていないようです。

最後に、この視点で、Wはいまいで、困難でも無関係でも、シンチレーション、深遠でクリスタルクリアで、私たちがそのように考え、振る舞うので、彼が格言的かつ電報で書き、彼を見逃すことは可能な限り最大の知的冒

陰の1つを逃すことを示唆しましょう。

合理性の論理的構造(高次思考の記述心理学)に関する合理的なスタートを切ったので、私がここ数年で構築したこの作品から生じる意図的性の表を見ることができます。これは、今度はヴィトゲンシュタインに多くを負っているサールからはるかに簡単なものに基づいています。私はまた、過去9行に証明されている思考プロセスの心理学で現在の研究者によって使用されている変更されたフォームテーブルに組み込まれています。ピーター・ハッカーの人間性に関する最近の3巻のものと比較することは興味深いはずですが。この表は、S1とS2の間の多くの(おそらくすべて)経路が双方向である多数の(おそらくすべて)経路を持つ、最終的な分析や完全な分析ではなく、私が見た他のどのフレームワークよりも完全で有用な動作を記述するためのヒューリスティックとして提供します。また、S1とS2の間の非常に区別、認知と意欲、知覚と記憶、感情、知ること、信じる、期待するなど、任意です-つまり、Wが示したように、すべての単語は文脈的に敏感であり、ほとんどがいくつかの全く異なる用途(意味またはCOS)を持っています。多くの複雑なチャートは科学者によって公開されていますが、私は行動について考えるとき(脳機能について考えるのではなく)最小限の有用性を見つけます。説明の各レベルは、特定のコンテキストで有用であるかもしれませんが、私は粗いまたは細かいことが有用性を制限していることがわかります。

合理性の論理的構造(LSR)、または心の論理的構造(LSM)、行動論理構造(LSB)、思考の論理的構造(LST)、意識の論理的構造(LSC)、人格の論理構造(LSP)、意識の記述心理学(DSC)、高次思考の記述心理学(DPHOT)、古典哲学用語。

**システム1は不本意、反射的、または自動化された「ルール」R1であり、思考(認知)はギャップがなく、自発的または審議的な「ルール」R2であり、意欲(Volition)は3つのギャップを持っています(サールを参照)**

私は、サールの「満足の条件に満足の条件を押し付ける」を「筋肉を動かすことによって精神状態を世界に関連付ける」に変更することで、行動をより明確に記述できることを示唆しています。話し、書き込み、そして彼の「フィットの世界の方向への心」と「世界からフィットする方向を気にする」による「原因は心の中に由来する」と「原因は世界に由来する」S1は、S2がコンテンツを持ち、下向きに因果関係(世界への心)を持っている間、上向きの因果関係(世界から生じる)と満足のいかない(表現や情報を欠いている)だけです。行動をより明確に説明する 私はこの表の用語を採用しました。

私は他の著作でこのテーブルの詳細な説明をしました。



## 意思決定研究から

	好きになる傾向がある*	感情	メモリ	知覚	欲望	PI**	IA***	アクション / 語
サブリミナル効果	ない	はい/ ない	はい	はい	ない	ない	ない	はい/ ない
連想 (A) ルールベース (RB)	RB	A/RB	A	A	A/RB	RB	RB	RB
状況依存 (CD) 抽象化 (A)	A	CD/A	CD	CD	CD/A	A	CD/A	CD/A
シリアル (S) 平行 (P)	S	S/P	P	P	S/P	S	S	S
ヒューリスティック (H) 分析 (A)	A	H/A	H	H	H/A	A	A	A
アクティブが必要 記憶	はい	ない	ない	ない	ない	はい	はい	はい
一般的なインテリジェンス 依存	はい	ない	ない	ない	はい/ ない	はい	はい	はい
認知的ローディング 抑制	はい	はい/ ない	ない	ない	はい	はい	はい	はい
覚醒は 促進 (F) または抑制 (I)	I	F/I	F	F	I	I	I	I

S2の満足度の公共条件は、多くの場合、Searleと他の人によってCOS、表現、真実作成者または意味(または自分でCOS2)と呼ばれ、S1の自動結果は他の人(または自分でCOS1)のプレゼンテーションとして指定されます。

\*設定、機能、設定、表現、可能なアクションなど

\*\* Searleの以前の意図

\*\*\* Searleの意図の実行

\*\*\*\* Searleのフィット方向

\*\*\*\*\*サールの因果関係

\*\*\*\*\* (精神状態がインスタンス化されます-それ自体を引き起こしたり実行したりします)。サールはこれを因果的に自己参照と呼んでいた。

\*\*\*\*\* Tversky / Kahneman / Frederick / Evans / Stanovichによって定義された認知システム。

\*\*\*\*\*異なる場所、異なる時間 (TT) 現在の時刻と場所 (HN)

特定の文脈における言語の可能な用途(意味、真実主義者、サティファクトの条件)を記述した後、私たちはその関心を使い果たし、説明(哲学)の試みは真実から遠ざかるというヴィトゲンシュタインの発見を常に念頭に置くべきです。このテーブルは、非常に単純化されたコンテキストフリーのヒューリスティックであり、単語の各使用は、そのコンテキストで調べる必要があることに注意することが重要です。文脈変動の最良の検討は、ピーターハッカーの人間の性質上の最近の3巻で、この1つと比較されるべき多数のテーブルとチャートを提供しています。

ヴィトゲンシュタイン、サール、および現代の2つのシステムビューからの行動の分析の包括的な最新の説明を望む人bookは、私の本ヴィトゲンシュタインとサール2 nd edで明らかにされた哲学、心理学、心と言語の論理的構造2nd edを相談することができます(2019)。).

今、サールのPNCに関するいくつかのコメントのために。PNCのエッセイは、すでに過去10年間にすでに出版されていますが(更新されたものもありましたが)、1つの未発表のアイテムと一緒に、ここで何も彼の仕事に追いついてき

た人には驚きではありません。Wと同様に、彼は彼の時代の最高のスタンドアアップ哲学者として多くの人に見なされ、彼の書かれた作品は全体を通して岩と画期的として固体です。しかし、後のWを真剣に受け止めなかったことは、いくつかの間違いや混乱につながります。

p7では彼は、基本的な事実に関する私たちの確実性は、私たちの主張を支持する理由の圧倒的な重みによるものと2回指摘していますが、Wは、それ自体が判断の基礎であり、それ自体が判断できないので、私たちのシステム1の認識、記憶、思考の真の唯一の公理構造を疑う可能性がないことを「確実に」で決定的に示しました。p8の最初の文では、彼は確実性が改訂可能であることを教えてくれますが、私たちが確実性2と呼ぶかもしれないこの種の「確実性」は、経験を通じて公理的で修正不可能な確実性(確実性)を拡張した結果であり、提案(真または偽)として全く異なります。これはもちろん、Wが何度も何度も実証した「言語による私たちの知性の妖艶との戦い」の典型的な例です。1つの単語-2つ(または多くの)異なる使用。

p10では、彼は理論化に対する彼の反感のためにWを追い詰めるが、私が上述べたように、「理論化」は別の言語ゲーム(LG)であり、よく働いた例がほとんどない行動の一般的な記述と、多くの対抗例の対象ではない多数のものから出てくる行動の間に広大な湾がある。初期の進化は、限られた明確な例を持つ理論でしたが、すぐには非常に異なる意味での例と理論の広大な体の要約になりました。同様に、理論では、Wの例の1000ページと10ページから生じる1つの要約として作るかもしれません。

繰り返しますが、p12では、「意識」は、いくつかの全く異なる感覚で「主観的」である自動システム1機能の結果であり、通常の場合、証拠の問題ではなく、私たち自身の場合には真の唯一の理解であり、他の人の場合には真の唯一の認識です。

p13を読んで、「激しい痛みを感じて、何も間違っていないかのように続けることができますか?」いいえ!—これは同じ意味での「痛み」ではありません。「内面の経験は外側の基準を必要としている」(W)、サールはこれを見逃しているようです。Wまたはジョンストンを参照してください。

次の数ページを読んで、彼は多くの文脈で同義語とみなし、彼の作品は言語使用の多くの厄介な例に例示されているように、Wは心/言語のつながりをよりよく把握していると感じました。上記のように、「今、それが私たちが懸念している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。そして、上記で説明したように、私はSがセクション3を終了する質問は、主に2つのシステムの観点からWのOCを考慮することによって答えられていると感じています。同様に、科学哲学のセクション6に対して。ロディッチはポッパー対Wの記事を行ったが、私は当時素晴らしいと思ったが、私は確かにそれを再読する必要があります。最後に、p25では、因果関係や自由意志の概念(言語ゲーム)の改訂が必要であるか、あるいは可能であることを否定することができます。あなたは理由のためにWのほぼすべてのページを読むことができます。量子力学や不確実性などの例を使って世界について奇妙なことを言うのは別のことですが、通常言葉の使い方に関連するものを言うのは別のことです。

p31、36などでは、現在の精神状態のみで構成されているS1と、そうではないS2に適用されるLGの「信念」、「見る」などの大きな違いに光を当てる同一の言葉(哲学と人生)の絶え間ない問題に再び遭遇します。残りの章は、EP、ヴァイトゲンシュタインの観点から、個人的な開発中に容赦なく普遍的に他の人との自動無意識のデオンティック関係の広い配列に拡大され、それらに文化的なバリエーションに任意に拡大されているS2の遅い処分を生成するS1の自動高速アクションである「社会的接着剤」に関する彼の仕事を要約しています。

第3章から5章には、私には決定的に見える心の機械的な見方に対する彼のよく知られた議論が含まれています。私は彼らに対する回答の本全体を読んで、私は彼らがすべて彼が作る非常に単純な論理的な(心理的な)ポイントを逃したことに同意します(そして、概して、Wはコンピュータがある前に半世紀早く作りました)。私の言葉では、S1は無意識、速い、物理的、因果関係、自動、非命題、真の唯一の精神状態で構成され、遅いS2は、多かれ少なかれ命題(TまたはF)になる行動(潜在的な行動)に対する意識の低下である行動の理由の点でのみ一貫して記述することができます。コンピュータと自然の残りの部分は、私たちの視点に依存している唯一の意図を導き出し、高い動物は視点から独立した主要な意図的性を持っています。SとWが理解しているように、大きな皮肉は、心理学の唯物論的または機械的な削減が最先端の科学を装っているが、実際には完全に反科学的であるということです。哲学(記述心理学)と認知心理学(迷信から解放)が手袋に手を差し伸べ、寒さの中に取り残されているのはホフスタッター、デネット、カーツワイルなどです。

ページ62はうまく彼の議論の一つを要約しますが、p63は彼がS2の文化的拡張の面で社会の動向を説明しようとするので、彼はまだ空白のスレートを手放していないことを示しています。彼は彼の著作の他の多くの場所で行うよう

に、彼は文化的な与え、行動主義の歴史的理由は、私にとって(Wと同様に)心の機械的な見方がほぼすべての行動と同じ理由で存在することは明らかです - それは私たちが主に気づかないままである自動化されたS1ではなく、ゆっくりと考えることができるものの観点から説明を求める私たちのEPのデフォルトの操作です(繰り返しますが、p65では、私たちの公理的に受け継がれた心理学とその拡張に関するWの記述は、彼のOCやその他の作品のS(または誰か)よりも深く、犬が意識していることを「自信を持っている」のではなく、それが何を意味するのかは明らかではありません(COSは何を偽ることができますか?、

第5章はCTM、LOTなどをうまく取り壊し、「計算」「情報」「構文」「アルゴリズム」「論理」「プログラム」などは観察者の相対的な用語(すなわち、心理的)であり、この心理的意味では物理的または数学的な意味を持たないが、もちろん科学が発展するにつれて最近与えられた他の感覚がある。繰り返しますが、人々は、その使用(意味)の大きな違いを無視することに同じ言葉を使用することによって妖艶です。古典的なヴィトゲンシュタインのすべての拡張機能、私もハットの論文をお勧めします。

第6章「フェノメノロジスティックイリュージョン」(TPI)は断然私のお気に入りであり、フェノメノロジーを取り壊しながら、彼の最高の論理的能力と後のWの両方の完全な力を把握できなかったこと、そして2人の自分自身に関する最近の心理学的研究の大きなヒューリスティックな価値の両方を示しています。TPIがS1の自動化に気づかず、S2のゆっくりとした意識的思考を一次的なものではなく、すべてあるものとして取り入れているのはクリスタルとして明らかです。これは古典的なブランクスレート失明です。また、Wが約60年前にこれを示し、また、私たちの生来のシステム1の真の唯一の無意識の自動公理ネットワークの優位性の中でその理由を与えたことも明らかです。他の多くの人と同じように、サールは周りで踊りますが、決してそこに着くことはありません。非常に大まかに、S1としての世界の「オブザーバー独立」機能とS2としての「オブザーバー依存」機能に関しては、非常に明らかにすべきです。Sが指摘するように、ハイデガーと他の人たちはオントロジーを正確に後ろ向きに持っていますが、もちろんEPのデフォルトのためにほとんどすべての人がそうします。

しかし、本当に重要なことは、SがTPIが少数の哲学者の失敗ではなく、EP自体がEPに組み込まれている私たちのEPに対する普遍的な失明であることを認識するための次のステップを取らないということです。彼は実際に一度にほとんどこれらの言葉でこれを述べていますが、もし彼が本当にそれを得たならば、彼は世界に対するその巨大な意味を指摘することができません。

まれな例外を除いて(例えば、ジャイナ・ティルタンカラスは5000年以上前にインダス文明の始まりにさかのぼり、最近では驚くほどオショ、ブッダ、イエス、菩薩、ダ・フリー・ジョンなど)、私たちは皆、地球を破壊する遺伝的にプログラムされた使命で人生をつまづく肉の人形です。S1の幼児の喜びを楽しむために第二の自己S2の人格を使用することに対する私たちのほぼ完全な先入観は、地球上の地獄を作成しています。すべての生物と同様に、それは再生し、そこにリソースを蓄積することだけです。はい、地球温暖化と次の世紀の産業文明の崩壊に関する多くの騒音ですが、それを止めるものは何もありません。S1は劇を書き込み、S2はそれを実行します。ディックとジェーンはただ家をプレイしたい-これはママであり、これはパパであり、これとこれは赤ちゃんです。おそらく、TPIは私たちが人間であり、単なる霊長類ではないと言えるかもしれません。

自己の性質に関する第7章は良いですが、何も本当に新しいものとして私を打つものはありません。財産二元主義に関する第8章は、主に彼の前の作品の再ハッシュにもかかわらず、はるかに興味深いです。上記の彼の冒頭の引用の最後はこれを要約し、もちろん、一人称オントロジーの重要な性質に対する主張は完全にヴィトゲンテニアンです。私が見る唯一の大きな失態は、二元主義の誤りに対するp 158の彼の空白のスレートまたは(文化的な)タイプの説明であり、私の見解では、それは明らかにTPIのもう一つの例であり、彼(そして他のほとんどすべての人)が何度も犯した間違いであり、そうでなければ素晴らしい第9章でp177などで繰り返されます。(主に)S2を介して肉人形の弦を引っ張る(筋肉を収縮させる)遺伝子プログラムS1。物語の終わり。繰り返しますが、彼はWのOCに関する私のコメントを読む必要があるので、p171の下部にある「信じる正当な理由」とp172の上部を「知っている」(真のみの意味でK1)に変更します。、

p169で再び重要な点が作られます。「したがって、何かを言って、それが満足の2つの条件を伴います。第一に、発話が生み出され、第二に、発話自体が満足の条件を持つことを満足の条件。これに関する1つの方法は、無意識の自動システム1がシステム2のより高い皮質意識的性格を活性化し、潜在的な行動にコミットする特定の方法で世界を見ていることを他の人に知らせる喉の筋肉収縮をもたらすことです。総筋の動きだけが意図に関する非常に限られた情報を伝えることができ、Sが第10章で同様のポイントを作る前言語的または原語的相互作用に対する大きな進歩。

彼の最後の章「命題の統一」(以前は未発表)はまた、S1を記述する真の唯一の文章とS2を記述する真または偽の命題の違いを明確にするので、Wの「確実性について」またはDMSのOCに関する2冊の本(私のレビューを参照)を読むことから大きな利益を得るでしょう。これは、S2で彼らについて考え始めた後にのみTまたはFになるので、S1の認識を命題として受け取ることに對するはるかに優れたアプローチとして私を襲います。しかし、命題は、過去と未来とファンタジーの実際または潜在的な真実と虚偽の記述を許可し、したがって、前言語学的または原語社會に對する大きな進歩を提供するという彼の指摘は、誠実です。彼が言うように、「命題は満足の条件を決定することができるものです。満足の条件.それはそうであるということです。あるいは、追加する必要があります。

全体として、PNCはSの半世紀の仕事に起因するヴィトゲンシュタインに對する多くの実質的な進歩の良い要約ですが、私の見解では、Wは彼が言っていることを理解すると、まだ不平等です。理想的には、彼らと一緒に読む必要があります:明確な一貫した散文と一般化のためのサークルは、Wの厄介な例と華麗な格言で示されています。もし私がずっと若かったら、まさにそれをやっている本を書くだらう。

